

「東北関東大震災」東日本に多大な被害

仙北市でも大規模停電発生 数日にわたり市民生活に影響



「仙北市東北関東大震災支援本部」設置 市民の安全確保と被災者支援へ

16日、救援物資をトラックに積み、宮古市へ出発。
現地の情報を収集し、支援手段を検討

3月11日に起きた東北関東大震災は、東北関東一円に人的、建物共に甚大な被害を発生させました。発生以降、全国から支援の手が延べられていますが、約3週間が経とうとする今も、被災地では多くの方が、避難所での不自由な暮らしを強いられています。

仙北市でも、停電や電話の通信障害などの被害がありました。同日、市は災害警戒部を設置、地域の被害確認、高齢者、一人暮らしの世帯の見回りを行いました。これには地域の民生委員、消防団の皆さんにご協力いただきながら、引き続き12日、13日と行いました。

市では市民生活安定の確保と被災地の支援を行うため「仙北市東北関東大震災支援本部」（旧田沢湖保健センター内）を13日設置し、16日には以前より「秋田岩手横軸連携」で交流のあった「宮古市」へ、備蓄していた救援物資を輸送しました。また、被災地への物資の提供を市民の皆さまへお願いしたところ、各地域センター、出張所に多くの善意が集まりました。物資の仕分け作業にも、ボランティアの方に参加してもらいました。

おかげさまで19日には災害協定

を結んでいる「茨城県高萩市」20日、21日に「岩手県山田町・大槌町」24日には「宮古市・山田町」25日に「山田町・大槌町」へと救援物資を届けることができました。

地域団体、民間会社でも仙台市、大船渡市、宮古市などへの給水活動、炊き出しなどの支援活動が行われています。皆さまのご支援、ご協力に本当に感謝いたします。

「とにかく命を守る、疲れ切った皆さんを救う行動を」市は市民と一緒に最優先で取り組む

被災地で避難生活を続けている皆さんの受け入れが始まっています。支援本部の立ち上げと同時に、避難者を受け入れ可能な施設を確認し、市の公共施設で1400人、民間宿泊施設のご協力で、全体で3200人規模の受け入れが可能となっています。

3月27日現在、仙北市での受け入れ避難者数は47世帯122人。市では、避難された皆さんの生活について、生活相談窓口を3地域センターに開設しました。

皆さまのご支援に感謝いたします
これからもご協力をお願いいたします



山田町、大槌町へ支援物資を輸送(20日)



米、毛布など救援物資が次々に集まる

宮古市で神代カレーの
炊き出しを実施(18日)



壊れた建物が被害の
大きさを伝える



広がる支援の輪
今、一人ひとりができる事を



ボランティアのご協力で物資の仕分けも進む



【仙北市東北関東大震災支援本部から】

《被災者の皆さまへ》

被災されました皆さまに対し、心からお見舞い申し上げます。
仙北市では被災者の皆様の支援をするため、支援本部を設置し全面的なサポートを行っています。

【避難先の提供】

公共施設、旅館等の避難先を避難者個々の生活ニーズに合わせて用意しており、学校、保育所などでお困りの方、高齢者サポート、移動手段の有無などケース毎にご相談をお受けしています。

また、ご親戚などの一般家庭に身を寄せている方、遠方で被災された親族をお持ちの方などについても、いつでも対応が可能となっておりますのでまずは左記までご連絡をお願いいたします。

「仙北市東北関東大震災支援本部」

仙北市田沢湖庁舎となり旧田沢湖保健センター内

電話 0187(43)1111

受付時間 8:30～20:30(平日、土日祝日)

【避難後のサポート】

仙北市に避難されている方の生活をサポートします。

○保険証など医療に関すること。

○高齢者サポートに関すること。

○教育、保育に関すること。

○住民票など戸籍関係。

○住居斡旋などその他生活全般に関すること。

まずは仙北市東北関東大震災支援本部(43)1111にご連絡をお願いします。内容をお聞きしたのち、市役所の専門部署で対応(解決)いたします。

《市民の皆さまへ》

支援本部では、被災地や避難者の救済活動と同時に、市内各分野で震災後に激変した産業環境等への対応を、すでに全庁体制で始めています。観光業、商工業、農林業等の政策の見直し、財源確保の手法などについて、可能な限り早期に市民の皆さまにお示ししたいと思います。